

平成 26 年度 放送番組審議会議事録

【開催日時】 2015 年 3 月 26 日（木） 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

【場 所】 J:COM 熊本 第 4 ・ 5 会議室

【出席者】

放送番組審議委員会：7 名

委員長

宮園 博光 （熊本県立大学総合管理学部 教授）

委 員

最相 博子 （地雷廃絶と被害者支援の会熊本 代表）

鳥崎 一郎 （大江校区社会福祉協議会 会長）

中村 勝子 （スペシャルオリンピックス日本 熊本事務局長）

釧羽 逸朗 （健軍商店街振興組合 相談役）

原 育美 （環境ネットワークくまもと 副代表）

吉永 健司 （合志あぐっと！村 村長）

放送番組審議会事務局：7 名

前田 貴敏 （J:COM 熊本 代表取締役社長）

戸森 俊一 （同 取締役 兼 企画・制作部長）

折田 康男 （同 企画・制作部アシスタントマネージャー）

入江 崇 （同 企画・制作部）

牧 幸生 （同 企画・制作部）

高野 晴香 （同 企画・制作部）

小藺 紫 （同 管理部）

【議事内容】

1. 開会の辞（前田代表取締役社長）

昨年7月から正式に「JCN くまもと」から「ジェイコム熊本」へ社名変更となり、「J:COM」という大きなグループの仲間入りをした。

コミュニティチャンネルについても、これまでのJCNからJ:COMへと変化していく動きの中、我々はどのような活動をしていくべきなのか、具体的に番組を見ていただきながら率直なご意見をいただきたい。我々では日頃気づかないような意見をいただいて、番組に少しずつでも反映させていきたい。私としては、今回はコミュニティチャンネルの番組審議のみならず、ケーブルテレビ・地元のジェイコム熊本を感じていただいてご意見を賜りたいので、ざっくばらんにお話をさせていただければと思う。

2. 委員・出席者ご紹介

3. 放送番組審議会 宮園会長よりご挨拶

4. 説明・審議

a.J:COMとの経営統合およびメディアセンター化について

前田代表取締役社長より説明を行った。

ケーブルテレビ業界でNO1であったジュピターテレコムと以前我々が属していたジャパンケーブルネットが昨年合併した。通信・携帯電話・メディア統括を軸にしたメディア企業として再出発した。以前は企画・制作部という番組制作部門が局の中にあっただが今後はメディアセンターという本部直結のセンターに所属することになる。

地域に密着して熊本の情報を発信するということには変わらないが、より広い範囲（熊本・福岡・北九州・下関）で番組を積極的に発信できるようになる。

b.番組ご視聴

J:COM 熊本の自主制作番組「デイリーくまもと」と「ひご・散歩」をご視聴頂き各番組対してご意見を頂いた。

（デイリーくまもと）

委員）水産物フェアのところで、水産物の生産量の推移などグラフがあれば、現在の有明海の状況と絡めながらより番組を見れる。最後のニュースは市長へのインタビュー時間が長かったように感じる。提案している側の職員さんのインタビューもあれば主催者側のモチベーションもあがる。受講者などの感想も一言あればよかった。

委員) 地元密着感があって、ゆるい感じで見ることができた。民放のニュース番組は大きな事柄しか取り上げておらず、このような細かいところまで取り上げてもらえるのはケーブルテレビ局ならでは。子どもから大人までが楽しめる内容になっている。

委員) 以前に比べて随分アナウンサーの声が聞き取りやすくなった。

委員) 主催者側がどんなことを提案したのだろうと内容が気になった。

委員) 地域密着ということであれば、熊本の市民でも知らないようなことも取り上げて欲しい。

委員) 情報収集の要素も番組内に取り入れてみてもいいかもしれない。テロップも黒字に白文字は読みづらいため工夫が必要。

委員) 地域団体の取組もニュースに取り入れてみても面白い。毎日放送するのではなく、定期的に特集をいれるなどしてはどうか。

事務局) それぞれの分野の内容を幅広く放送はしているが、毎日の放送でバランス良く編成が組めるように取り組んでいきたい。

委員) 取材の地域も同じ区ばかりではなくローテーションをかけて番組構成していくといい。取材の窓口(誰に・どこに・どうやって)が市民に分かりやすく提示していただけると依頼がしやすくなる。

事務局) 情報収集の仕方も今後の課題にして、考えていきたい。

(ひご・散歩)

事務局) ヒストリーアワード受賞作品であることを説明。

委員) 番組としては非常にすっきりとして見やすかった。

委員) 番組中のBGMも熊本の民謡や、今回訪れた五校の校歌をいれて歴史を思わせるような音楽だと良かった。

委員) 番組中ででてきた「五校(ごこう)」のイントロネーションが場面によって違った。固有名詞については事前チェックが必要。

委員) 昔のお金についての話が出てきた場面では、「現在では〇〇円」というテロップが出ていると観ている方としては分かりやすい。今の時代に換算すると多かったのか少なかったのかどちらの意味合いなのか分からなかった。

委員) 建物の内部が映っている場面が少なかった。移動中の車窓風景など入っけてもよかったと思う。

委員) 間取りや地図など図式があればわかりやすい。今回のテーマ「五校」についても、知らない人もいるはずなのでみんなが知っている前提ではなく、知らない前提で番組作りをしていくと尚よい。

事務局) この番組の担当者と、今回いただいた視聴者目線での要望を取り入れ改善していきたいと思う。

(その他)

委員) 福岡・北九州・下関の中で熊本は自然が豊かなところが特徴だと思うので、せっかく九州として部署が1つになるのであれば熊本の良さをアピールして行ってほしい。熊本の活性化にもつながっていく。

6. J:COM チャンネル熊本のこれから

事務局(折田)より今後のJ:COM チャンネル熊本の番組編成について説明を行った。

7. 報告事項

事務局(折田)より番組基準に抵触する映像手法を用いた放送実施に関する行政指導について説明を行った。

7. 閉会の辞(戸森取締役兼企画・制作部部长)

昨年の閉会の挨拶時、うちのスタッフは若くてやる気はあるが気持ちだけが空回りしていて伝えたいことが伝えられているだろうか・・・と不安だとお伝えした。しかし、1年たった今では賞が取れる番組が作れるまでに成長してくれた。去年は「熊本弁講座」で大いに盛り上がっていただいたが、それに代わる番組として今回は「ひご・散歩」でたくさんの意見をいただいて新しい風ができたという意味では大変意味のある1年であった。4月から体制も変わり、福岡・北九州・下関のいいところを吸収しながらもっといい番組が作っていけるように頑張っまいりますので今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

以上